こ・こ・ら・ぼ
～こころのコラボレーション～

スクールサポーター
（臨床心理士）
小林　真理

前月号からシリーズで「特別支援学校」と地域の小・中学校の「特別支援学級」について書きましたが、今月号ではそれらをとりまく現状についてふれていきます。

この仕事に携わるようになり、毎年「どちらに就学・進学・進級するか」で心底考えを巡らせ、悩まれている保護者の方とお話をさせていただいています。その中で「昔はみんな一緒にやってたよ。それでできないなりにやってたよ。」と伺うことがあります。

文部科学省としては「インクルーシブ教育」という方針を推進していこうと、動きだしたところです。インクルージョンとは「障がいの有無、人種の違いなどの区別をせずに包含し、その中で区別なく特別なニーズを持つ人には、必要な対応を行うこと」ということです。簡単にいうと「みんな一緒にやっていきましょう」という、「昔」と同じような教育環境をつくって推進してこう、ということです。とはいえ、実際には予算や人員の配置など、実現にはまだまだ時間を要するようです。「みんなと一緒」を望むのは当然なことなのですが、地域の学校や教室に「みんなと一緒にいる」ことがみんなと一緒なのか、「みんなと一緒のことができるようになるために必要な支援を受ける」ことがみんなと一緒なのか、その選択にはそれぞれのご家庭の考え方と子どもの状態、それと環境との折り合いによるところが大きいことなのです。

ひとつ確かなことは、どの子どもも「認められたい」「できるようになりたい」「褒められたい」という気持ちを強くもっているということです。それぞれの子どもの成長がありますが、大切なのは、「どこで」「どのように」必要な配慮や支援をしていくのか、ということで、そのために文部科学省はじめ地方行政は、その環境をどう整えていくのか、という課題のスタートラインに立っているということになります。

いずれにしても、『どうせ自分なんて…』『やってもできない』という気持ち、いわゆる「二次障がい」が強くなってしまわないようにすることが大事なことです。本人や保護者の方、関係の学校、クラスの先生方と話し合い、見学や体験を重ねながら選択していくことが重要なのですね。

頑張ってます！　軽井沢中学校生徒会

生徒会の資源回収で得た12,759円を、東日本大震災による被災地へ役立てていただくため、軽井沢町社会福祉協議会を通じて日本赤十字社長野県支部へ送金しました。

塵も積もれば（資源回収の内訳：新聞680kg・雑誌220 kg・段ボール200 kg・アルミ缶90 kg・スチール缶 23 kg・ペットボトル35 kg・キャップ133 kg）

生徒一丸となって、頑張りました!!

『隣る人』上映会

と　き　12月9日（日）
9時30分～11時30分

ところ　中央公民館　大講堂

※上映時間85分。終了後に町内の児童養護施設職員とのトークを予定しています。

定　員　150名（入場無料・先着順）

主　催　町教育委員会・町企業機会均等推進協議会

親と暮らせない子どもたちと、隣り合う保育士たち。そして、子どもとふたたび暮らすことを願う親。ある児童養護施設の日常を追う8年間のドキュメンタリー。

刀川和也監督作品　文部科学省選定（青年向き・成人向き）
隣る人ホームページ:www.tonaru-hito.com

【問い合わせ】
生涯学習係
☎45-8695

毎月第3日曜日は「家庭の日」